

式 辞

例年より厳しい冬の寒さが和田岬を覆う中にも、やっと春の訪れが感じられる今日の佳き日に、兵庫県立神戸工業高等学校第七十四回卒業証書授与式を挙げて下さることは、卒業生はもとより教職員一同にとりまして、この上ない喜びでございます。今年に入ってからの第六波の流行があり、感染への懸念が増大していただけない、卒業証書授与式をここに執り行えることは感慨もひとしおであります。

ただ今、卒業証書を授与いたしました五十四名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。教職員一同心からお祝い申し上げます。また、この日までお子様を支え励ましてこられた保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。こうして卒業式を迎えることができたのは、保護者の皆様のご理解とご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

さて、卒業にあたり卒業生の皆さんに私から三点お話をしたいと思います。

まず一点目は「卒業までやり通した自分に自信を持ってほしい」ということです。

皆さんは4年間の定時制課程を無事完遂されました。学業と勤労の両立は簡単なことではなく、仕事の都合で遅刻をしたり疲労により体調を崩して欠席したり、決して学びに適した環境ではありませんでした。後半の2年間は新型コロナウイルス感染症が流行し、感染予防に気を遣いながらの状況となりましたが、よく耐えてやり遂げました。自分に自信をもってください。それと同時に周囲への感謝も忘れないでください。この卒業は皆さん個人の努力に加えて、家族や友人、先輩や後輩、先生や職場の上司、同僚など、いろいろな人の励ましや配慮、応援、叱咤激励があったことも忘れてはなりません。

二点目は、「柔軟な視点を持ってください」ということです。

皆さんが、これから過ごす社会は予測困難な社会になると言われています。人工知能や情報技術の飛躍的な進化によって、いろいろなものが国境を越えて非常に速く相互に影響し合い、広範囲かつ複雑に伝わっていきます。そのため、人間の予測を超えた社会的変化が進展しています。そのような社会では、自ら、その場その場で情報を判断していかねばなりません。しかし、情報は簡単に取得できるが故にあふれており、中身は玉石混淆で信ずるに足るかどうかを見極めることは容易ではないのも現実です。誤った情報を信じたために、新型コロナウイルスのワクチン接種を巡って人間関係が壊れたり、海の向こうでは国のトップを選ぶ選挙に大きな影響を及ぼしたりした実例があります。皆さんは、情報に触れるとき、一つの見方で即断しないでください。事実の一つでも、見方によって真実は複数存在することがあります。いろいろな見方で事実を確認することを忘れないでください。

三点目は「プラス思考で考えてください」ということです。世界的に著名な経営者である稻盛和夫氏は、「どのような人生を送ったかという人生の結果は、能力と熱意と考え方のかけ算である。しかもその中で最も重要なのは、考え方である」と仰っています。それは、能力や熱意は大きさを表わしますが、考え方は向きを表わすからです。いくら能力や熱意が大きくとも、考え方がマイナスの向きならば、かけ算の答えとしての人生の結果は、マイナスになってしまいます。したがって、物事を建設的に考えるプラス思考で行動することが、充実した人生の結果を迎えるうえで重要だということです。

皆さんも卒業し次のステージに向かわれるときには、自分に自信を持ち、情報を多面的に吟味し、常にプラス思考で、進んでいってください。

卒業する皆さんが、神戸工業の卒業生であったことを誇りとし、自分の人生を切り拓き、社会に貢献してくれることを心から期待して、式辞といたします。

令和四年三月一日

兵庫県立神戸工業高等学校

第二十五代校長 千葉 栄三